

# 趣味のスケッチ ゴクラクチョウカ

絵と文 桜庭厚生



ほんやりとTVを見ていたら、お笑い芸人さんたちが出演して、十数種類並べてある野菜や果物、魚介類

の中から「旬のもの」を当てるクイズ番組をやっていた。

四季折々に山の幸、海の幸に恵まれている

我が国ならではのクイズ番組であろう。養殖やハウス栽培が盛んになり、食べ物に季節感が薄れてきてい

るようになってしまう。「目に青葉山時鳥初鷹」は季節を五感で愛でることが出来る日本人ならではの感嘆である。

この季節には「ゴールデンウィーク」という贈り物もある。あの大震災から一年が経ち、復興未だの観はあるものの、年々歳々花相似たり年々歳々花人同じからず、の光景をみる。

今年も被災地に桜前線は、昨年一昨年と同じように、北上して行った。それに誘われよ

うに色とりどりの草花が町を、野山を賑わせていく。

前出のクイズ番組で「ハチミツは5月が旬です」と言っていた。「なるほど」と思った。

「被災地に行ってお土産を買ってこるのも復興支援よ」と、被災地には例年とは趣を異にした行楽客が訪れている、と言う。復興支援にもいろいろな方法がある。

筆者は、東日本には行けず申し訳なかった



## 農業生産法人日本豊受自然農 応援メッセージ

3月20日の春分の日に京都リサーチパークにおいて「日本の農業と環境シンポジウム」―自然に還れ、農業・環境の復興は日本の復興につながる―が農業生産法人日本豊受自然農主催によって開催された。数多い講演者の中から静岡県のJA函南東部の片野敏和代表理事組合長と農地再生運動に取り組んでいるGOPグリーンオーナー倶楽部の大下伸悦主宰から寄せられたメッセージを紹介する。

### 熱い思いは脈々と

JA函南東部 代表理事組合長 片野敏和氏



JA函南東部組合長の片野敏和です。JA函南東部がある丹那地区は120年の酪農の歴史が脈々と続く「酪農の里」。ちよと静岡県の伊豆半島の付け根に位置しています。北に優美な富士山を望み、箱根や伊豆の山々を背にした標高2500mの小さな盆地です。ここには18戸の酪農家と約1000頭の乳牛が暮らしています。自分達の作った乳製品は、自分達の手で消費者の皆様に届けたいという強い熱意で1948年にJAを設立しました。それから60余年、地域の農業生産者の熱い思いは今も脈々と引き継がれています。2011年には、日本豊受自然農株式会社、この函

### 耕作放棄地 自然農の優良農地に

GOP・グリーンオーナー倶楽部主宰 大下伸悦氏



南の地で自然農を展開することになりました。私もこの思いを込めては

時代が変わっても、美味しくて安心な農産品づくりの信念を頑固に守り続けたいと考えており、日

本豊受自然農株式会社の取組みに対しても、精一杯のご協力を行わせてもらっています。

私たちのプライドである。幸いなことに「耕作放棄地」によって農地は自然回復している。

千葉県の大多喜町中野地区での話。41年前の大水害で橋は流され、田んぼの地形まで変わってしまった。地元はあきらめて、38年間、地権者たちも足を踏み入れたことがないとのことであ

た。それはもう、ジャングルを切り開くようなものである。10名ほどのボランティアメンバーが手弁当で通い続け、大木を伐採して幅1メートル程度の橋を架けた。資材費を含め経費ゼロである。貴重な木こり体験によってジャングルが見事な農地に変わった。なにもそんなところを開墾しなくても、いまもすぐに田植えができてしまう休耕地がたくさんあるではないか」といわれそうだが、

京都のメンバーの田んぼは、1年に1回だけ田んぼに入る。収穫をするために入るのである。初めは草も木も生え、草取りも苗植えもない、草の活動の方がいい。なに

39年間放棄されていた農地は自然力で滋(みな

### A E時代のさきがけ

ジャーナ 志村弘雄氏、祝う

本紙相談役で元毎日新聞社の志村弘雄氏

「環境・文化弘報研究

所理事長「視点・接点」

ジャーナリスト)がシン

ポジウム開催を祝つた

たメッセージを寄せ

て結びつく「A E時

代」のさきがけとなる

今日の意義あるシンポ

ジウムに感銘ひとし

お。

「五穀」を国を護る

「護国」にする。その

掲野の広がりにも期待

申し上げます。

おめでとございま

す。

私たちがのプライドであ

る。幸いなことに「耕作放

棄」によって農地は自然

回復している。

千葉県の大多喜町中野

地区での話。41年前の

大水害で橋は流され、田

んぼの地形まで変わって

しまった。地元はあきら

めて、38年間、地権者た

ちも足を踏み入れたこと

がないとのことであ

た。それはもう、ジャン

グルを切り開くようなも

のである。10名ほどのボ

て手を合わす」のみであ

る。我々グリーンオー

ナー倶楽部の仲間たち

の思いは、「玄米や麦や芋

たちの意識」とともにあ

る。

日本人の特性は差し上

げ上手と謙虚さである。

思い出して、利他共生社

会へと回帰させよう。

緑地面積67%の日本の

自然環境は、世界でもも

っとも恵まれている。初

夏には全国の田んぼが湖

と化し、膨大な緑地と化

す。自然に生かれば食で

困ることはない。意識を

チェンジしよう。

遣伝子組み換えの種

と、農地の農薬被害に

ついて、「種は、一晩で

天然自然な先祖返りさせ

ることが出来る」。農地

も一晩で自然な土壌に回

帰させることができる。「

」しかも安価でできる。そ

のことも知っておれば悲

観から解放される。

今年、古事記編纂1

300年の記念年であ

り、来年は伊勢神宮、出

雲大社の遷宮である。今

年と来年で、人類を「利

他共生に導く、謙虚に橋

渡しをする」のだ。高齢

イコール聖として認識し

てよい。おおいなる存在

が、日本の高齢化熱社会

を用意したのだといえ

る。あなたという聖にそ

ういう使命が託されて

いる。利他共生の時代へ

の道筋は、高齢者が担

う。わたしたちには夢が

ある。寝込んでいる場合

ではない。私たちはまぎ

れもなく日本国のオーナ

ーなのである。